

令和4年度 地域ケア圏域会議 実施結果

高齢者あんしん相談センターむさしの

日時及び場所	参加者	討議内容(地域課題・対応・今後の課題など)
7月21日(木) 13:00～14:00 場所:南畑公 民館2階会議 室	医師 1名 薬剤師1名 町会長5名 民生委員・地区代表 7名 介護支援専門員4名 生活支援コーディネ ーター 1名 高齢者福祉課1名 福祉政策課2名 健康増進センター 1名 高齢者あんしん相談 センター5名 計28名	「南畑地域における避難行動要支援者と地域とのかかわりについて」 《ケース概要》 1. 南畑地区の高齢化率等の推計と防災の現状 2. 南畑地区の避難行動要支援者登録状況【第1町会:4名 第2町会:9名 第3町会:6名 第4町会:4名 第5町会:4名】 《対応》 ・南畑地区は広い、家と家が離れている。いざ災害が起きた時に南畑 小学校が避難場所になり得ない可能性もあり、避難時に誰がどうやって、ど こに要支援者を連れていくのか検討の必要性があり、周辺の協力も重要と なる。大地震などの突然の災害でなく、水害については予測が可能である ため、事前準備が可能。自助・共助・サービス利用等で、早めのショートステ イを利用したり、事前の緊急連絡先の確認を行うことで、親族等に支援依頼 もできる。町会役員や民生委員から電話で、避難を促がしても、詐欺を疑っ て電話に出ない。協力者自身やその家族を優先しながらの対応も難しい。 市の防災放送は聞こえづらく、高齢者はスマホの操作が不得手で、災害時 の情報収集が難しく、避難が遅れてしまう。緊急通報システムはあるが、避 難したかどうかの確認できるシステムはない。防災ガイドマップも置かれて いない。台風19号の際に、避難が遅れた高齢者に対し、不安の解消や対処 方法の電話対応をしたことがあった。 ・避難行動要支援者登録者は、それぞれに個別計画を作成されている。高 齢化が進み、支援が必要だと思われても、登録していない人は多い。認知 症で申請ができない方や目に見えない対象者もいる。親族不在の場合もあ る。町会や民生委員だけでの対応でなく、班や地区で協力する方法が良い が、申請書や計画書は、複雑でわかりづらいので、単純化し情報共有しや すい方が有効と思われる。しかし、個人情報問題もあり、お互い助け合う という形は難しい。南畑地域の高齢化は進んでいるが、大型商業施設がで きたことで新しい住民が増えているので、新旧住民間の顔の見える関係作 りと連携を図ることで災害時の対応の力になると思われる。 《今後の課題》 ・日頃から起きるかもしれないことを住民自身・住民同士で話題に触れて、 誰がどんな優先順位で避難を働きかけていくのか考えていく必要がある。 ・ガイドマップや避難行動要支援者登録申請書の周知を行う必要がある。 ・富士見市・地域住民・各医療機関や薬局、居宅支援事業所・サービス事業 所・地域包括等との連携を図る必要がある。
11月28日 (月) 13:00～14: 00 場所:南畑公 民館2階会議 室	薬剤師1名 ふれあいサロン代表 6名 介護支援専門員5名 生活支援コーディネ ーター 1名 高齢者福祉課1名 健康増進センター 1名 高齢者あんしん相談 センター4名 計19名	「高齢者ふれあいサロンの現状と今後について」 《概要》 第1圏域のサロンでは、コロナ禍での休止や縮小が続いている。 また、サロンを支えている代表や協力員が70歳代や80歳代であることから、 代表の継承者がなく、やむなく解散となったサロンもある。 地域の高齢者が集まる居場所として貴重な社会資源であるサロンの継続と 今出来ることを探りたい。 《対応と展望》 ・社会福祉協議会にはボランティアのコーディネート支援があり、サロンの 紹介ができる。先日は50歳代のボランティアを紹介した。 ・新たなサロンを新しい思いで作り直していくのも一つの手である。 地域に新しいものを作るためには「発展的解消」という考え方もあり、新しい 芽を育て、育むには既存のものを解消することも大事だと学んだことがあ る。 ・出来れば50歳代の若い人に協力員やいずれは代表なってほしいと願い、 声を掛けている。 ・町会や子供会など、地域の団体と関わりを持つことが大事。特に子供会は 若い人もいてエネルギーがある。協力を得られれば、負担軽減に繋がるか もしれない。 ・同じ地域を支える町会との関りは大事。町会長の参加が一度もないのは 残念。回覧板で協力員を募るチラシを配布したりと協力を求めることはで きる。 ・協力員の中にはいくつかのサロンに関わっている人もいる。代表も1人が 複数のサロンの代表になれば、もしかしたら解散をしなくてもすむかもし れない。

<p>2月13日(月) 13:00～14:00 場所:南畑公 民館2階会議 室</p>	<p>医師1名 町会長1名 民生委員6名 薬剤師1名 介護支援専門員5名 生活支援コーディネーター1名 福祉課1名 高齢者福祉課2名 高齢者あんしん相談センター5名 実習生 1名 計23名</p>	<p>「認知症高齢者に対する地域の見守りと連携について～地域での関わり方～」 《ケース概要》 1.勝瀬町会 認知症高齢者対応ケースの一部紹介:課題や地域見守りと連携についての情報共有及び検討。 2.あんしんサポートねっと紹介:判断力が不十分な高齢者、重要な書類の管理、お金の出し入れなどの支援介入サービス。社会福祉協議会が窓口。 3.認知症初期集中チーム紹介:認知症・認知量の疑いがあるが病院受診や治療、会議などのサービスに繋がりの無い方など困難事例を対象。医師や市役所初期集中支援チーム、包括職員と一緒に今後の支援を考えていくチーム。</p> <p>《対応と展望》 ・あんしんサポートねっとは、それぞれの事情や環境が違うので、細かな内容を伺ってそれぞれにあった解決策を見つけるよう支援している。 ・オレンジカフェのある地域においては、近隣の方々と認知症・認知症の疑いや物忘れのある方などを知っていただける機会の場になっている。勝瀬町会にはオレンジカフェがなく認知症やその予備軍の方々を知っていただける場所がない。地域の方々への情報共有や見守りの協力を求めたり、地域で暮らす高齢者を安全な環境で暮らせるように考え、この場で相談させていただいている。町会の範囲が広く、民生委員・町会長の交代もあり、住民の入れ替わりが激しい為、把握が難しいところがある。 ・ふじみ野駅近郊は高齢者人数が少なく、サロンやカフェに行っている報告も受けることが無い。勝瀬小近郊は、一般高齢者が多く、独居は6-7名の為、月一回の見守り入電している。包括と連携を取り、配食サービスのパンフレットお渡しし導入した方がいる。 ・認知症を治療に繋げることで、進行が緩徐したり、投薬が合う方は治まる方もいる為、受診に繋がれることが望ましい。また認知症でなく別の疾患で症状が出ていることもあり。 ・サロンやデイサービスなどの刺激を受けることがとても大切。近隣の見守りを含めた地域の関わり合いを持っていく。地域の方々との情報交換を密にとれるような関係性を築いていける場を設けられるよう検討していく。 ・認知症サポーター養成講座・フォローアップ講座などの受講を勧めていく。</p>
---	--	--